

① 中止  
② 外れる  
③ 毎朝

④ 台本  
⑤ 凶星

2  
1 A ウ  
B イ  
C ア

2 もりつけかた

3 ウ  
4 たべやす い

5 ア 1  
イ 1  
ウ 2

3  
1 紙しばいが

2 a ア b エ  
3 動物

4 ③ ウ  
⑤ イ

5 おあし  
6 エ

7 おじさん はも

配点	
①	各2点 × 5 = 10点
②~③	各5点 × 18 = 90点
<hr/>	
＜計＞100点	

1 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①の「止」は筆順も正しく覚えておこう。たてぼうが一画目、短い横ぼうが二画目である。②「外」は右側の「ト」が「人」にならないように気をつける。③「毎」の四画目ははねる。つらぬく横ぼうはさいごに書く。④「台本」は劇の「台詞」などが書いてある本のこと。「脚本」「シナリオ」ともいう。⑤「凶星」は「的」の中心の黒点」のことで、そこから「目当ての所」「急所」という意味になった。

2

1 A (A)の前に書かれていることの例を(A)のあとで書いているので、ウ「たとえば」がはいる。  
B (B)の前後で日本のもりつけと洋食のもりつけを比べているので、イ「だけど」がはいる。  
C (C)の前に書かれていることにならべて書かれているので、ア「また」がはいる。  
2 「色だけでなく、たべものがおいしそうに見えるひみつはほかにもある」のあとに「そのひとつが、もりつけ」とあるが「もりつけ」では字数にあわない。本文四行目に「もりつけかた」がある。  
3 「こんもりと」は「まるく盛り上がった」で、ほかは音や声を表したことは(擬声語)である。ア、エの中で同じように目に見えるもの様子を表すことば(擬態語)はウ「ぐるぐると」で、ほかは音や声を表したことは(擬声語)である。  
4 うつわにぎゅうぎゅうにつめこまれた料理より、少しゆとりがある料理のほうが優れている点を答える。「美しい」以外だと本文二行目にある「たべやすい」になる。「おいしそう」は見た目の問題で「見た目にも美しい」とあまり変わらない。  
5 ア 本文の最後の段落で「ひとりでたべるのか、みんなでいっしょにたべるのかによっても、もりつけかたは変わるかもしれないね」とあることから考える。  
イ (C)がある段落の内容から考えればよい。  
ウ 本文の三段落目に「国や文化によっても、もりつけかたにはちがいがあふ」と書いている。焼き魚の大根おろしはお皿の手前、洋食のハンバーグなどの主役の料理は皿の奥のほうにつけ合わせをおくことが多いと書いてあるので本文の内容にあわない。

3

1 本文四行目の「おじさん」のことばから理由が読みとれる。  
2 a 「目をまるくする」は、おどろいている様子をあらわす。  
b おじさんがこしらえた「ぞう」の出来がよくなかったことから考える。  
3 おじさんはきのうまで紙しばい屋だったのだから、いつのまにあめで動物をつくれるようになったのか不思議なのである。「けいこ」を「練習」とおきかえることができないと難しい。この時点でどの動物をこしらえるのか決まっていないうし、「漢字二字」という問いの条件にもあわないので「さる」や「ぞう」ではない。  
4 ③ 「正ちゃん」はお母さんに「おあし」をもらいにいったのだが、もどってきたあと「なにをこしらえてもらうかな」と頭をかしげていることから、お母さんから「おあし」をもらえたと考えられるので、そのときの気持ちを答える。  
⑤ 「おじさん」がこしらえたぞうの出来がよくなかったのを見た子どもたちの反応である。  
5 「おじさん」にぞうをこしらえてもらおうかわりにわたしたちのものである。あめをこしらえてもらった代金と考えられる。  
6 「おじさん」は紙しばいをやめてあめ屋になったわけだが、こしらえたあめの出来はよくなかった。子どもたちは「おじさん」にまた紙しばいをしてもらいたかったのだ。  
7 「おじさん」のこしらえたあめの細工は出来がよくなかったのに、じぶんでは「もとから」「うまいんです」と言っていた。

以上